

平成 21 年 5 月 18 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320068

研究課題名（和文） 古チベット語ユニオンデータベースの構築と解析
-言語接触を中心とする多層構造の解明-研究課題名（英文） Constructing the Old Tibetan Union Database
-Analyses of linguistic diversities and language contacts

研究代表者

武内 紹人 (TAKEUCHI TSUGUHITO)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：10171612

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：歴史言語学・チベット語・言語接触・データベース・敦煌

1. 研究計画の概要

本研究が対象とする古チベット語文献は、7-10世紀に書かれたチベット・ビルマ諸語の中でも最古の文献群であり、シナ・チベット語族の解明の基盤となる。本研究では、

(1) 世界各地に分散する古チベット語文献のテキストデータを網羅したユニオンデータベースを構築する、
(2) 古チベット語文献を年代・社会言語学的背景・ジャンルによって分類・記述する、
(3) 項目(2)で記した古チベット語の多層性を考慮しながら言語コーパス（項目(1)）を言語学的に解析する、の3段階の作業によって、古チベット語の多層的構造と歴史的变化を分析し、さらに将来の研究の基盤を形成することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

平成18年度から20年度は、予定していた研究実施計画にもとづき以下の作業を行った。

(1) ユニオンデータベースのためのプログラムの構築

代表者武内と連携研究者星泉および研究協力者今枝由朗が、紙文書と碑文データベースの処理と出版についての協議を東京と神戸で行った。

(2) 新たなテキストデータの入力作業

武内、岩尾、今枝、西田が新たな文書を入力し、武内、岩尾、西田がテキストの読みを原物で確認する作業を大英図書館およびフランス国立図書館において行った。碑文については、網羅的にテキストを入力しデータベース化すると同時に、テキストをモノグラフとして出版することができた。

(3) 各国のコレクションのデータベースとのリンクとデータ取り込み

武内と岩尾が、大英図書館において国際敦煌学プロジェクトの van Schaik と協議し、データベースの互換作業を行った。

(4) データの言語学的分析

これまで蓄積した言語データを、分担者林と協力して、チベット・ビルマ諸語と比較の上、歴史的・社会言語学的バリエーションの分析を開始した。

3. 現在までの達成度

当初研究目標の達成度は、②おおむね順調に進展している、に区分できる。その理由は、

(1) 予定していた文書のデータ入力、順調に進み、とくに碑文はほぼ網羅的にデータベース化することができた。

(2) 作成したデータの言語学的分析にもとづく古チベット語の生成と変成過程について、ある程度の見通しを得ることができた。

(3) ただ、その細部の解明は、こんごの分析がひつようである。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 入力予定の他の古チベット語文書のデータ入力を進める。

(2) チベット語文書と関連する、未解読のシャンシュン語文書も同時にデータベース化を進める。

(3) 作成したデータの解析にもとづき、古チベット語文語の生成過程と変成過程、および口語諸方言と社会言語学的バリエーション、漢語・コータン語・シャンシュン語などの言語接触についても分析を進めたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

武内紹人「チベット語文書」吉田順一・チメドドルジ編『ハラホト出土モンゴル文書の研究』雄山閣 2007年2月、pp.200-209.

武内紹人「古チベット文献研究の現段階」『東洋史研究』第67巻第4号(2009) 123-129.

T. Takeuchi, "Tshar, srang, and tshan: Administrative units in Tibetan ruled Khotan." *Journal of Inner Asian Art and Archaeology* 3 (2009).

N. Hayashi, "Verb Serialization in Youle Jino" *Proceedings of the Chula-Japan Linguistics Symposium*, (2009) 251-266.

[学会発表] (計8件)

2007. 5 Takeuchi, 招聘講演: "The Impact of the finds at Dunhuang on Tibetan Studies," A Hundred Years of Dunhuang, 1907-2007, The British Academy, the British Museum and the British Library, 17-19 May 2007.

2008. 2 Takeuchi, 招聘講演(2回)、Oxford University, Oriental Institute: "Problems and Progress in Old Tibetan Studies," "Post-imperial Old Tibetan texts in the 10th Century and Thereafter." 13th and 14th February 2008, Oxford University, Numata Distinguished Guest Speaker Series: The Advent of Buddhism in Tibet.

2008. 5 Takeuchi, 招聘講演: "The Universal Nature of the Tibetan Literary Tradition- Contributions of non-Tibetan Peoples." Colloque Edition, édition: l'écrit au Tibet, évolution et devenir, at Ecole Normale Supérieure, Paris.

2008. 9 Takeuchi, "Present stage of deciphering Old Zhangzhung." with Ai Nishida. International Symposium on the Linguistic Substrata in Tibeto-Burman Area, at National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.

2008. 9 Takeuchi, "Formation and transformation of Old Tibetan." International Symposium on the Linguistic Substrata in Tibeto-Burman Area, at National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.

2008. 8 Hayashi, "Semantic Gradation in Youle Jino Subordinators," The 14th Himalayan Languages Symposium (University of Göteborg).

2008. 9 Hayashi, "Historical Development of Youle Jino and Linguistic Substratum of Tibeto-Burman" The International Symposium of Linguistic Substratum of Tibet-Burman Area (National Museum of Ethnology).

2008. 9 Hayashi, "Copula in Youle Jino" The 41th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (London: School of Oriental and African Studies).

[図書] (計3件)

Y. Imaeda, T. Takeuchi, et. al., *Tibetan Documents from Dunhuang kept at the Bibliothèque Nationale de France and the British Library*, Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol. I (Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2007) XXXIII + 358 pp.

K. Iwao, N. Hill, T. Takeuchi, *Old Tibetan Inscriptions*, Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol. II (Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2009) XXXVII + 98 pp.

林範彦『チノ語文法(悠楽方言)の記述研究』(神戸市外国語大学、2009)217pp.

[産業財産権]

○出願状況(計 件)

○取得状況(計 件)

[その他]